

1. 策定の趣旨

子どもの読書活動は、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かにし、人がより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである。県では、令和2年3月に「第3次福井県子どもの読書活動推進計画」を策定し、子どもが自主的に本に親しみ、読書を楽しむための環境整備を推進してきた。

令和5年3月には、国による「第五次子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」が策定された。本県でも、情勢の変化に対応し、子どもが本と出会い読書を楽しむ環境整備に向けて、今後おおむね5年間にわたる計画を策定する。

計画策定状況

国 第3次：平25.3、 第4次：平30.4、 第5次：令5.3
県（改定なし） 第3次：令2.3、 第4次：令7.3(予定)

2. 策定スケジュール

	～9月	10～12月			1～3月		
推進会議	第1回 (8/28) 策定について		第2回 (10/23予定) 計画案検討		第3回 (1月予定) 計画案確定		
						パブリック コメント	計画策定

第3次推進計画の取組と成果

1. 家庭における読書活動推進

① 家庭での読書活動の形成について啓発活動

- ・ ブックスタート 17市町で実施を継続

2. 地域における読書活動推進

① ジュニア司書の育成・養成

R2～R5までの認定者数(累計) 県立図書館97、市町図書館85 計182名のべ10市町の市町図書館で開催(R3～R5)

② 公共図書館において、本の紹介や読み聞かせ

3. 学校における読書活動推進

① 推奨図書を活用した読書推進活動のべ36小学校で実施(R4～R6)

【主な活動内容】

- ・ 司書によるブックトーク、推奨図書展示
- ・ 学校図書館スーパーバイザーによる学校図書館活性化、学校読書活動への研修、アドバイス

② 全校一斉読書

③ ビブリオバトル大会(中・高)

- ・ 中学校はR2年～、高校H27～毎年継続して実施

④ 司書教諭、学校司書の配置について働きかけ

4. 全ての活動の基礎となる県の取組

① 推奨図書の選定・情報提供

- ・ 子どもの成長段階を8段階に分け、各段階で約100冊の推奨図書を選定
- ・ 推奨図書を紹介する小冊子を毎年増刷し、ブックスタート参加者(0歳児)、小学1年生、中学1年生に全員配布

② ボランティア活動実施

- ・ 読み聞かせ等の読書ボランティア 17市町(図書館、学校等)で活動

③ 学校図書館司書、保育士や読書ボランティア向け研修実施

2. ① 福井県ジュニア司書認定状況 (単位:人)

区分	R2	R3	R4	R5	計
県立図書館	19	31	11	36	97
市町立図書館	—	4	47	34	85
内訳		1市	5市町	4市町	
計	19	35	58	70	182

2. ② 県内公共図書館児童書貸出冊数

R1 約167万冊(34.3%) → R4 約156万冊(36.3%)
※()内は個人貸出冊数に占める児童書個人貸出冊数の割合

2. ③ 県内公立図書館児童書蔵書冊数

R1 約1,384万冊(22.7%) → R4 約1,423万冊(22.8%)
※()内は蔵書冊数に占める児童書蔵書冊数の割合

資料:「福井県内公共図書館調査集計表」(福井県立図書館)

3. ② 一斉読書をしている学校の割合 ※()内は全国統計

小学校 H28 100.0%(97.1%)→R2 95.2%(90.5%)
中学校 H28 92.0%(88.5%)→R2 86.5%(85.9%)
高校 H28 85.2%(42.7%)→R2 85.7%(39.0%)

3. ④ 司書教諭発令状況(公立学校のうち11学級以下の学校)

小学校 H28 66.4%(28.7%)→R2 62.5%(30.7%)
中学校 H28 51.4%(31.2%)→R2 45.9%(31.0%)
高校 H28 該当校なし(36.2%)→R2 75.0%(38.8%)

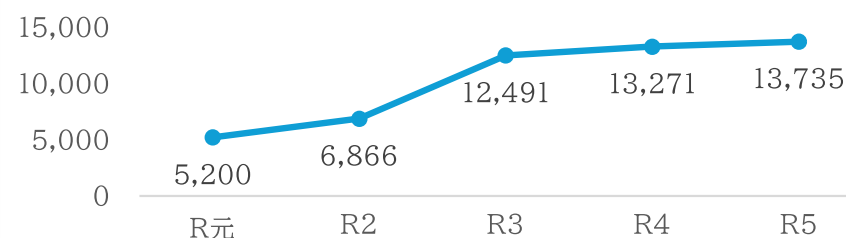
3. ⑤ 学校司書配置状況

小学校 H28 36.6%(58.8%)→R2 38.5%(69.1%)→R5 54.9%(72.0%)
中学校 H28 51.4%(57.1%)→R2 48.6%(65.9%)→R5 45.8%(71.4%)
高校 H28 100.0%(66.9%)→R2 100.0%(66.4%)→R5 96.0%(71.3%)

資料:「学校図書館の現状に関する調査」(文部科学省)

「令和5年度公立学校における学校司書の配置状況に関する調査」(文部科学省)※④のR5のみ

4. ① 県立図書館の推奨図書貸出冊数 (単位:冊)



第3次推進計画の主な取組状況

1. 家庭における読書活動推進

○ブックスタート

0歳児健診などの機会に、絵本をひらく楽しい「経験」と「絵本」をセットにしてプレゼントする活動。



越前市 絵本バックと絵本
(絵本はうち1冊プレゼント)



あわら市
「ブックスタートの
おしらせ」

2. 地域における読書活動推進

○ジュニア司書の育成・養成

図書館で働く司書の仕事や図書館の機能、調べものをするための知識や技術を学ぶ講座を開催。ジュニア司書認定後は、同年代の子どもたちに、図書館の良さや読書の楽しさを伝えていく活動を行う。



図書館とは？本の分類、
本の探し方



カウンター体験



バックヤード見学

○公共図書館において本の紹介や 読み聞かせ



県立図書館での読み聞かせ



こどもの読書週間企画展

3. 学校における読書活動推進

○推奨図書を活用した読書推進活動



推奨図書展示
(福井市本郷小 R5)



ブックトーク
(坂井市平草小 R5)



学校図書館活性化アドバイス
(小浜市立内外海小 R6)



学校図書館スーパーバイザーによる研修
(越前町立朝日小 R6)

<実施校の声>

学校図書館と校内の様子を見ていただき、具体的なアドバイスを得られて有意義だった。講義では講師のこれまでの実践から、本校に合った取組を紹介いただくことができた。

○ビブリオバトル大会(中・高)

発表者が読んで面白いと思った本を1人5分程度で紹介。意見交換を経て、どの本が一番読みたくなったかを参加者の多数決で決める本の紹介コミュニケーションゲーム。

R6県中学生大会(11/23)、高校生大会(11/9)に実施予定。



県高校生ビブリオバトル(R5)



県ジュニア司書養成講座(小学生の部)での
ビブリオバトルの様子(R6)

第3次推進計画の主な取組状況

4. 全ての活動の基礎となる県取組

○推奨図書を選定・情報提供

乳幼児から高校生まで子どもの成長段階を8段階に分け、各段階で約100冊の推奨図書を選定。小冊子配布、およびリストをHPに掲載。



幼児編(60冊掲載)



小学生編(72冊掲載)



中・高校生編(72冊掲載)



選定委員会



推奨図書展示
(鯖江市図書館)



推奨図書コーナー
(県立図書館)

○ボランティア 活動実施



令和6年度子供の読書活動文部科学大臣表彰
美浜東小学校読書ボランティア「めめたんごの会」



○学校図書館司書、保育士や読書ボランティア向け 研修実施

- 学校の図書担当教職員、学校司書等向け学校図書館活用講座



講義「引き出す教育・楽しむ教育をつくる
学校図書館」、ワークショップ「図鑑の使い
方指導～目次と索引を使いこなす」
(50名参加 R5)



講座「学校図書館の活性化を図る～
藤田式「調べる学習」指導法」(35
名参加 R5)

- 保育者向け絵本研修



「保育の中で
絵本を生かす」
(23名参加 R5)

- 子ども読書ボランティア向け研修、読み聞かせ相談会



講座「子どもに昔ばなしを
～「子どもに語る」シリーズを刊行して～」
(41名参加 R5)



県立図書館での読み聞かせ相談会
(随時実施)

現状と課題

現状

※()内は全国統計
※統計の数値は特に記載がない限り、「全国学力・学習状況調査」(文部科学省)より

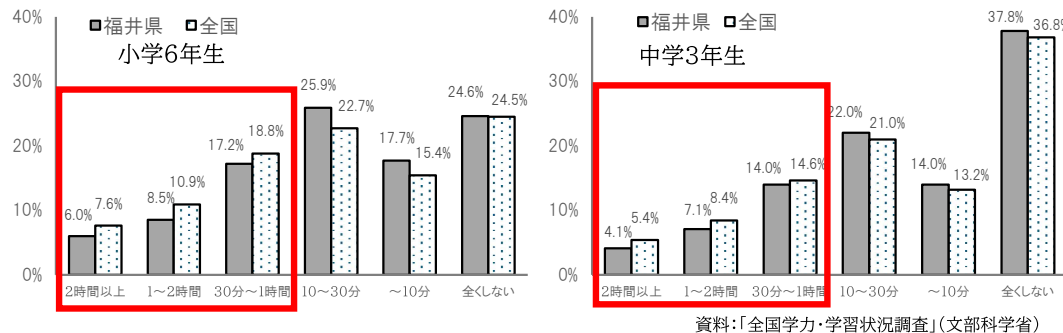
○平日に全く読書時間がない小中学生の割合、1か月に1冊も読まない高校生の割合はいずれも増加傾向

- 平日に全く読書時間がない児童生徒の割合
小学6年 R1: 15.5%(18.7%)→R5: 24.6%(24.5%)
中学3年 R1: 32.1%(34.8%)→R5: 37.8%(36.8%)
- 1か月に1冊も読まない高校生の割合
R1: 43.8%(55.3%)→R5: 46.3%(43.5%)

資料:
福井県「高校生学習状況調査」(福井県)
全国「学校読書調査」(SLA)

○読書時間が30分以上の小中学生の割合が全国より低い傾向が続く

- 平日の読書時間別の児童生徒の割合(R5)

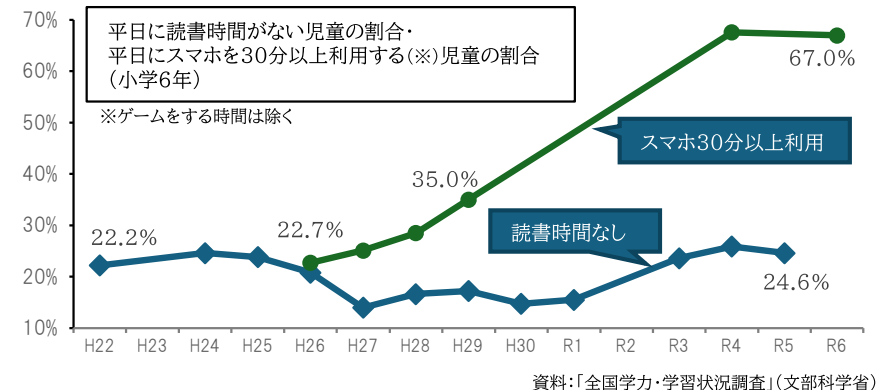


○「読書が好き」な小中学生の割合について、小学生は全国に比べて低い傾向が続き、中学生はR5に全国より低下

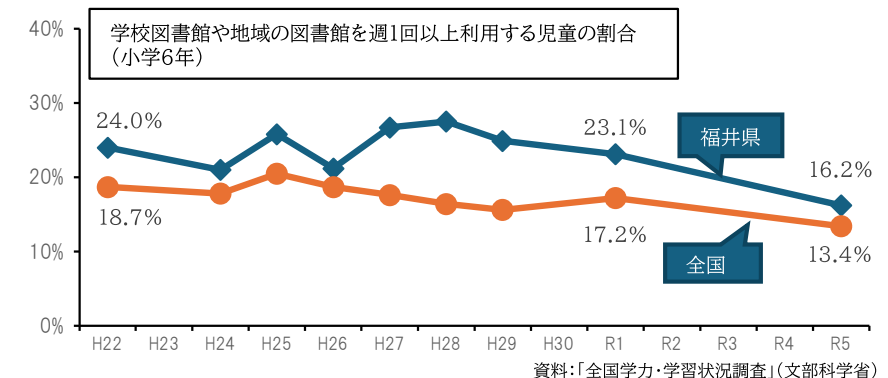
- 「読書が好き」な児童生徒の割合
小学6年 R1: 72.6%(75.0%)→R5: 68.6%(71.8%)
中学3年 R1: 69.3%(68.0%)→R5: 64.1%(66.0%)

○スマートフォン利用時間が増える一方、図書館の利用頻度は減少

- 平日に携帯電話やスマートフォンを30分以上利用する児童生徒の割合
小学6年 H29: 35.0%(32.7%)→R6: 67.0%(64.4%) ※ゲームをする時間は除く
中学3年 H29: 62.5%(66.3%)→R6: 89.0%(89.9%)



- 学校図書館や地域の図書館を週1回以上利用する児童生徒の割合
小学6年 R1: 23.1%(17.2%)→R5: 16.2%(13.4%)
中学3年 R1: 7.7%(8.3%)→R5: 5.2%(7.0%)



課題

1. 自主的に読書を楽しんでいる児童生徒の割合が全国と比べ少ない傾向
2. スマートフォン利用時間が増える一方、小学生までの読書習慣の形成が不十分
3. 新型コロナウイルス感染症の影響により本に触れる機会が減少

県内における取組例（タブレットを活用した特色ある取組）

○あわら市金津中学校

学級数15 生徒数380人

タブレットによる蔵書検索、ホームページの運用

よい学校づくりは、「図書室が利用される環境整備」から実践

ネットを活用して学校図書館の書籍の予約が可能となる蔵書検索システム「カーリル 学校図書館支援プログラム」を令和6年5月に運用開始（県内初）。※本プログラムは、カーリルから無料提供
生徒・教職員のみ利用可
～タブレットを持ち帰ることで、自宅からでも書籍の検索可能～



HP「金津中学校の図書館へようこそ」
「図書館の使い方」に載せる利用案内動画を
図書委員会が作成中



「本の探し方」では、生徒がセレクトした
読みたい本を探すヒントになるページ
（書評サイトなど）を紹介

「金津中学校にある本を探そう！」

「まずは図書館にどんな本があるかを知って
もらうことが必要」という図書委員会による意
見がきっかけに。



26件見つかりました。



キーワードに「SDGs」での検索結果画面
本の表紙画像が表示される。クリックする
と詳細画面に

○池田町立池田小学校 アプリによる読書記録

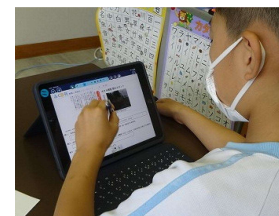
（令和4,5,6年度わくわく読書活動応援事業実施）

学級数8
児童数69人

アプリ「読書管理ビブリア」を使用。
読書記録をデータで行うことで、
いつどの本を読んだかを一覧できる。



福井新聞デジタル
学習教材「ふくe刊」
を活用



○県立丹生高校 電子書籍の導入

学級数13
生徒数330人

電子書籍を導入し、いつでもどこでも読書が
できる環境を整備。紙の本による読書とあわせ
て、読書を推奨。

学校向け電子図書館サービス
SDL (School Digital Library) を使用。
※学校向けアプリ「Sora」

生徒は、タブレット端末や、自身のスマホを
用いて、読み物など約11,290冊(R6.6現在)
から、選択して読むことができる。



丹生高電子図書館「Sora」



一覧画面

県内における取組例（高校における特色ある取組／公共図書館と学校との連携）

県立若狭東高校 学校ポータルサイト

学級数18
生徒数362人

（令和6年度子供の読書活動文部科学大臣表彰）

学校教育DXの推進により、学校図書館の機能を拡充するとともに、生徒が集う場所として活用を促進。その一つとして、図書館からの新刊案内のほか、生徒会、デジタル学習教材「ふくe刊」、アンケート機能等、全ての連絡事項を集約した学校ポータルサイトを立ち上げ、学校図書館が管理・運営



若狭東高校ポータルサイト
「図書・情報センターからのお知らせ」
※生徒・教職員のみ閲覧可能

生徒は毎朝、ショートホーム中にタブレット端末からゆっくり選書可能

鯖江市図書館 学校図書館支援センター

公共図書館が市内の小中学校に手厚い支援を継続的に実施

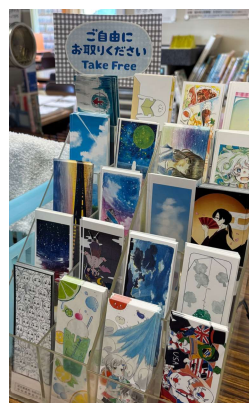
- ①図書室(学校図書館)利用のオリエンテーション等の指導
(4月頃に5校程度)
- ②学校からの依頼に応じて、調べ学習の資料提供、読み聞かせ・おはなし会、書架整理・本の修理、テーマ展示などを実施
- ③定期的に学校訪問
(市内12小学校に各17回程度訪問、3中学校に各5回程度訪問)
- ④子どもたちに読んでほしい本を選定した朝読書用の本(読み物、絵本)のセット「ちかもん文庫」を、申し込みに応じて学校に貸出し
- ⑤学校の読書活動、調べ学習支援のため、申し込みに応じて学校に貸出し ※毎週木曜日に学校への配送サービスを実施

県立武生東高校

学級数13 生徒数357人

学校司書による、読書を楽しみ、自主的に読むための仕掛けづくり

- ①校内ビブリオバトルの実施(1年生・2年生)
ビブリオポイントカードで本の紹介ポイントをまとめる
- ②県ビブリオバトルへの参加
発表の仕方を学習
- ③学校祭図書館企画「しおりコンクール」の開催
- ④映像によるお薦め本の紹介
本に関心を持たせる映像を作成・上映
- ⑤ハロウィン企画読書クイズ「カボンチャを探せ」
キャラクターの設定とヒント集により
読書への関心を高める



しおりコンクール入賞作品



ちかもん文庫
＜小学校 低学年用・中学年用・高学年用＞
各100冊 計26セット整備
＜中学校用＞200冊 6セット整備



学校への団体貸出用として、
読書、調べ学習用の資料を整備。
(例:国語小3「仕事の工夫見つけたよ」様々な仕事の本)

これまでの子どもの読書活動推進会議における意見

読書環境の変化・不読率

- 子どもが本嫌いになったからではなく、**コロナ等により、読みたいときに読みたい本がある環境や、本との出会いが不足したことが、不読率の高さに影響しているのではないか。**
- SNS、YouTube等の動画コンテンツなど、エンタメの選択肢が増え、読書環境に影響を与えているのではないか。SNS、YouTube等にはまっている子どもも、絵本を読み聞かせればよく聞き、絵本の世界に入り込む。**本のおもしろさを伝える大人の介在が必要**である。
- コロナ禍以降、小学校2年生になっても絵本中心、読み物が手にとれる段階になっていない様子が見える。高学年でも、短いアンソロジー、映像化された作品のノベライズが好まれる傾向にあり、読書の在り方がかわってきているように感じる。

読書のとらえ方

- 1冊読み通すことだけではなく、**調べもの等により資料を読むことも「読書」としてとらえることが必要**ではないか。高校生の数値目標に読書冊数が挙げられているが、読書冊数ではない数値目標とするほうがよい。

子どもと本との出会いの場

- 友達、仲間、家族など、身近な人のすすめ**が本を手取るきっかけとなる。
- 読書好きな子どもが同じ空間にいて、楽しそうに本を読んでいると、本嫌いの子も、本に興味を持つ。本が楽しい、図書館が楽しいという経験を増やしてあげることが必要。
- 子どもから子どもへ読書の楽しさが広がっていく。本好きな子どもが、子どもに読書の楽しさを伝える取組が広がっていくことを期待する。
- SNS等でブックトークを通じて、本のおもしろさ、読書の楽しさを発信するといよいのではないか。
- 子どもが本に触れるような機会を多く作ることが重要である。

学校図書館の環境整備

- 小中学校図書館への人員配置**を望む。学校図書館の環境を整備し、本の紹介、読み聞かせをするなど、本を子どもに手渡すことで、子どもたちは本に親しむことができる。本と子どもをつなぐ役割には、「人」の存在が大きい。
- 学校図書館蔵書のデータベース化が必要**。児童生徒用のタブレットで、学校図書館の蔵書が検索できるようになると、学校図書館の図書を活用できるようになるのではないか。

GIGAスクール構想による1人1台端末タブレットの活用

- 本とタブレットにはそれぞれ良さがあってどちらも使っていくことが大事である。探究活動においても、**本もインターネットも活用し、情報活用能力を高める**ようなアドバイスができるとよい。
- 子どもたちにとって本は買うには高く、また、借りるための図書館までも距離がある。子どもに本に触れることができる環境を整備するためにも、**タブレットを活用して本を読めるようにすることはできないか**（電子書籍の導入等）子どもたちは本好きであるが、本が身近にある環境がない。本が気軽に手にとれる環境があれば、もっと読むようになる。
- タブレットに**公共図書館の貸出カードアプリ**をいれ、例えば、図書館での校外学習で利用案内をすることにより、図書館利用につなげることができる。

人づくり、連携・協力

- 保育園、学校等において、読書にかかわる**職員の育成**が必要である。
- ボランティア、教員、学校司書、保育士等、**子どもの読書活動を支える担い手への研修等の実施**、支援や協力への体制の整備が必要ではないか。
- 学校、図書館だけではなく、**民間（企業、私設図書館等）連携しての取組**（社員教育、経営者へ読書インタビュー等）も、読書活動推進のきっかけになるのではないか。

情報提供・情報共有

- 子どもの読書活動推進への取組が県民に知られていない。**周知を図るべき**である。
- 読書に関する課題を共有**することが大切である。共有することが、多くの人々に読書活動に関する取組を広げていくことにつながる。県の子どもの読書活動の現状や、取組内容を知ること、**子どもの読書活動推進の輪が広がっていく。**

子どもの意見

本を読むのがきらいな理由

令和5年度わくわく読書活動応援事業実施校に対する読書アンケートで、本を読むことが「どちらかといえばきらい」「きらい」と回答した人に対し、きらいな理由を回答してもらった。

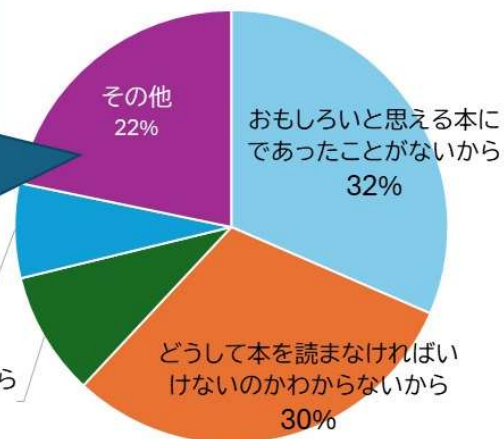
「その他」(自由記述)
 ・文を読むのが苦手だから
 ・ページの多い本を読み切れるのか不安があるから
 ・文字が難しいから
 ・集中できないから
 ・読むことがめんどくさいから
 ・本で読むよりテレビで見る方が良から
 ・読むよりも運動の方が好きだから
 など

音読ではずかしい思いをしたから

7%

読みたくない本を読まされたから

9%



ある本を読もうと思ったきっかけ

学校や本屋、図書館など身近な場所で手に取る・目に触れる機会があること、友だちや家族など身近な人にすすめられたり、ブックトーク等で紹介してもらうことが大きく影響することがわかる。

ポスター・小冊子を見て

4%

→タッチポイントを増やす必要

家族・身近な人にすすめられて

4%

ブックトーク・読み聞かせを聞いて

5%

友だちにすすめられて

18%

地域の図書館で見て

2%

学校図書館や学級文庫に置いてあるのを見て

33%

本屋に置いてあるのを見て

21%

家にあったから

2%

出典：R5わくわく読書活動応援事業
 読書アンケート
 (福井県教育庁生涯学習・文化財課)
 ※11校の5・6年生556名が回答

本が好きじゃない、本を読むのが苦手など、読書をしていない友だちに、読書をすすめるにはどのようなことをすると思いますか

◎図書館などの読書ができる場所を増やす 14人

◎学校図書館(図書室)におもしろい本や人気の本がたくさんある 14人

◎読書についての楽しいイベントをする 14人

◎友だちと本の話をする 13人

◎読みたくなる本をプリントで紹介する 11人

◎家族と本の話をする 6人

◎地域の図書館や学校図書館(図書室)に本のことを相談できる人がいる 7人

◎読みたくなる本を、SNSなどで紹介する 5人

☆ビブリオバトルをする

出典：R6福井県ジュニア司書養成講座(福井県教育委員会)
 参加者(小4～中3)へアンケート(回答数：27人)

盲学校でのワークショップから

○読書について

- ・点字本の種類が少ない。最近の小説、ライトノベル、話題の本の点訳本を読みたい。
- ・点字は読めないで、無料のオーディオブックで本を聞くことが多い。
- ・スマホやタブレットを利用して、文字を拡大して本を読んでいる。
- ・文字を読むのは大変なので、読み聞かせは楽しい。読み聞かせしてもらいたい。

○学校図書館について

- ・学校図書館が生徒たちの交流の場となっている。公共図書館は、読みやすい本(点字本、大活字本)が少ないので、本を借りるための目的ではあまり利用していないが、学習のためやすきま時間に利用している。

特別支援学校でのワークショップから

○読書について

- ・物語、絵の多い本、写真の多い本、知識、図鑑など、生徒によって好きな本は様々。
- ・絵本の読み聞かせを楽しんだり、本の内容等を紹介すると、興味をもつ。
- ・読書補助具(リーディングトラッカー)の存在を知らなかった。使いたい。読みたいところに集中することができる。

○図書館について

- ・学校図書館には、本屋にある本があまりない。読みたい本を、先生に言えるとよい。

出典：県こどもファースト意見発信事業ワークショップ
 (県こども応援ディレクターが、学校に出向いて児童・生徒との対話を通して意見聴取)
 令和6年7月23日 盲学校 5人 7月16日 嶺南西特別支援学校 高等部10人

国の子どもの読書活動推進計画の概要

第四次 H30(2018)～R4(2022)年度

○取組の方向性(ポイント)

1. 読書習慣の形成に向けて、発達段階ごとの効果的な取組を推進
2. 友人同士で本を薦め合うなど、読書への関心を高める取組を充実
3. 情報環境の変化が子供の読書環境に与える影響に関する実態把握・分析

○推進体制

1. 市町村の役割
2. 都道府県の役割
3. 国の役割

○推進方策

1. 発達段階に応じた取組
2. 家庭における取組
3. 地域における取組
4. 学校等における取組
5. 子供の読書への関心を高める取組
6. 民間団体の活動に対する支援
7. 普及啓発活動

第五次 R5(2023)～R9(2027)年度

○基本の方針

急激に変化する時代において、必要とされる資質・能力を育む上で、**読解力や想像力、思考力、表現力等を養う読書活動の推進は不可欠**であり、全ての子どもたちが読書活動の恩恵を受けられるよう、以下の点を考慮し、**社会全体で**子どもの読書活動を推進する。

1. 不読率の低減
2. **多様な子どもたちの読書機会の確保**
3. **デジタル社会に対応した読書環境の整備**
4. 子どもの視点に立った読書活動の推進

○推進体制

1. 市町村の取組等
2. 都道府県の取組等...
3. 国の取組等

- ・ 県立図書館を活用した市町村への支援
- ・ 域内市町村への助言、取組・施策の紹介
- ・ 高校等の所管の立場からの、読書活動の推進等の関連施策

○推進方策

1. **共通事項**
 - ①連携・協力、②人材育成、③普及啓発、④発達段階に応じた取組、⑤子どもの読書への関心を高める取組
2. 家庭
3. 地域
4. 学校等
5. 民間団体

関連法律・計画等

- ・ 読書バリアフリー法(R元年6月)、読書バリアフリー計画(R2年7月:R2～R6)
- ・ 第6次「学校図書館図書整備等5か年計画(R4年1月:R4～R8)
- ・ 学習指導要領の改訂／実施(R2～)
- ・ GIGAスクール構想による1人1台端末の学習環境
- ・ 学校教育の情報化の推進に関する法律(R元年6月)、学校教育情報化推進計画(R4年12月:5年間)
- ・ こども基本法 (R4年6月)

スマホの普及やコミュニケーションツールの多様化、電子書籍の普及